

松田先生、■■■■さん、先日は、私 たった1人だけの
為に、わざわざ自分史教室を開講していただきまして
本当に有り難うございました。

参加者が1人だけというのは、今までにない と聞き
申し訳なく思う半面、私自身、どうしても 今月の教室に
参加したかったので、私だけの為に自分史教室を聞いて
くださった事を、バから女喜しく思いました。感謝です。

参加する前は、“自分史”という言葉聞いた事は
あるものの、実際 どんな事をするのか。
自分史を作る事で、自分にとって、何かプラスになる事
があるのかな…？ など 考えていました。

実際に参加してみて、本当に良かったと素直に
そう思いました。贅沢で、とても貴重な時間
は、あっという間に過ぎたように感じます。
他に参加者の方がいなくて、私一人だけだった
というのも、大きかったです。

私しか参加者がいないのにも かかわらず
松田先生は、真陰に話を聞いてくれ、又
真陰に話をしてくれました。

結婚して、7年がたち、

出産して3年4カ月がたち、

“忙しい”子育てにも、ほんの少し、時間の余裕や
気持ちの余裕が 出てきたせいもあるのか、

最近 は、“結婚”って何だろう …。

“夫婦”って何だろう …。

“家族”って？

“母親”って？

“本当の愛”って 一体 どういう事 なんだろう …？
などと考えるようになっていました。

子供が産まれてからは、子供を育てる事だけに
とにかく 無我夢中で、自分は、“母親”
なんとしてでも、この子達を 守っていかないと…!!
と、常に 気持ちが張りつめていました。

今、考えても、当時は 怖いくらいに 気負いすぎて
いました。日々 育児本と格闘し、ちょっとミルクを
や土いたただけで、“何か 病気じゃないか…”
と 思っていました。

そうしているうちに、いつの間にか 夫の前でも
“妻” でも “一人の女性” でもなく
“母親” になっていました。

“忙しい”とは、

“バ”を“亡くする”事…。

今回の自分史教室で松田先生が教えてくれたお話に、ハッっ としました。

子供が産まれてからは、忙しいというのかとにかく気持ちに1ミリの余裕もなく
ピリピリしていましたので、それこそが
“バ”を“亡くした”状態だったんだ…。

と気付く事ができました。すごくよくわかります。
バを亡くしていたから、人の話も耳に入りません。

せっかくの助言も

優しい言葉も…。

皆、私の為を思ってくれていたのに
素直に聞けずに自分の殻に閉じこもって

ただただ毎日、子供・子供・子供・子供…
でした。バがないから、何も受け容れる
事ができません。

忙しいとは、バを亡くする事…。松田先生のお話を
聞き、当時の自分に納得する事ができました。

“今”の私のバは、しっかりと生きています。

「思うよ！（そりゃもちろんっ）」

「子供がいて、良かったと思いますか？」

という私の算問に.

深く うなずきながら。そう言いきった松田先生。

三人の娘さんの父親でもある松田先生を
陰ながら見守り、実はしっかりと支えている
松田先生の家族の姿が見えたような
気がしました。

しっかりとした 家族の 強い絆。

強い糸があるからこそ.

本気でぶつかっても、また元に戻る。

家族だからこそ、本気でぶっかかりあう。

夫婦老...

親見子也...。

そしてまた、その度に絆が強く、確かなものになっていき、
 どんどん、お互いが、お互いを
 掛け替えのない存在と見ていく。

これは 相^{cc}思⁹⁹相^{cc}愛⁹⁹ ですよね... ?

自分史教室で、松田先生の話を聞いていくうちに
こんな風に冷静に

自分の事を考えたり、夫や、子供の事を考えた
家族について考えられるようになりました。

「伝えたい 彼の言葉は...？」

そんな事も、この自分史教室に参加しなかつたら
意識して考える事はなかったと思います。

友達には素直に言える「有り難う♡」
という言葉も、夫には素直に言えません。
自分の両親にも、ちょっとテレがあって
なかなか言えない状態です。

本当は、大切な言葉だとわかっているのに...。

と家族だから...」

と親だから...」

言わなくても、わかってくれているだろう...

と、自分の都合いい時だけ

と家族」を持ち出して...。

⑥

もし、明日、本当に自分が死んでしまったら……。
私は死んでも死にきれません。
この世を離れられずにいると 思っていました。

娘達に もっといろんな事を教えてあげたかった。
一糸者に動物園に行ったり、海でカニを
つかまえたり、一糸者に料理も作らせたかったし
恋の話もしたかった……

とにかくもっと一糸者の時間を過ごしたかった……
と間違いないく そう思うはずですよ。
でも、今、まだ 3才4カ月の娘達には、
私の気持ちなど わかる はずもありません。

だからこそ、その想いを、自分の字で
残す事が大事なんだと……
松田先生の話を聞いて「あ〜、そういう事が……
と思う事ばかりでした。」

普段は当たり前すぎて、すっかり忘れてしまっている
事それが、実は すごく重要で、物事の
基本になっているんだな……と 気付く事が
できました。

ちょっと、大げさだ。と思われるかもしれませんが
私は今回、この自分史教室に参加させていただき
松田先生のお話から、「生きるヒント」を
沢山 教えていただいたと思っています。

「今、一番 欲しい物は何？」と聞かれ
迷わず「お金」と即答した私に、
「人は死んだら、何も持っていけないんだよ。」
と松田先生は言いました。

誰もがわかっている、そんな当たり前の事さえ
私は、当たり前すぎて、考えていなかったのです。
目先の事だけに とらわれすぎて、
本当に大切な“バ”を、どこかに置き忘れて
きたんだと 思い知ったのです。

バが、かちかちに固まって、自由を失った
状態 だっただと・・・。

松田先生、本当に 本当に 有り難うございました。
松田先生に出会えた事、お話を聞いた事、
それは私の財産になりました。

気持ちを切り替えるヒントも教えてもらいました。
それを、うまくできるか、できないか。あとは自分次第。
これからも、成功より、失敗する事の方が「タタ」と
思っています。

でも、いつも“バ”を原点に。
一日、一日を大事に過ごすように意識して、
子供共との時間も大切に。
そして、松田先生の家族のように。

何かあった時は、いつもお互いが、本気で
ぶつかりあう事ができるご家族を
作っていけるように、少しずつ、努力していきたいと
思います。

自分史教室に、また機会があれば必ず参加したいと思いました。

木公田先生、[REDACTED]さん、
本当に有り難うございました。

長々とすみませんでした。

210